

日本という国「商道あきないの道」

日本を見つめ直し、楽しく生活、仕事しましょ、シリーズ。

現代の私たちの心のありかたには、**古来からの調和**と、**武士道**の根幹である「**名こそ惜しけれ**」、**恥ずかしいことをするな**、とともに、**商道**に認められる**正直でひたむきであること**、を美德とする道徳観念があります。

これにより、日本の多くの国民が、真面目な仕事の大切さを知っており、日本の社会基盤が信頼できる安定的なものとなっています。

※残念ながらいつの時代にも、人の道を踏み外す不幸な人は一定確率で存在します。

石田梅岩ばいがんは、徳川綱吉・吉宗の時代に生きた商人・思想家で、世界に先駆けて商いの本質を語り、実践し、それを「石門心学」として日本に広めた人でした。 ※現代でも「都鄙問答とひもんどう」という書物で経営者によく知られています。

20世紀最大の社会思想家マックス・ウェーバーの二百年前に、商売で利益を得ることの正当性、資本主義の根幹を語り、現代の経済思想家ピーター・ドラッカーの二百五十年前に、事業は正直で真摯であるべきこと、顧客重視と公共への奉仕が大切であること概念を訴えました。

西洋では宗教改革以前は、新約聖書テモテへの手紙6:10-12に記されている「**金銭を愛することは、すべての悪の根である**」とされているとおり、日本では儒教の影響が強かった時”**貴穀賤金**”「**穀物は貴いもの、お金は賤しいもの**」という概念があり、西洋・日本共、商売で利益を得ることは道徳的に否定的にみなされていました。

その後、西洋ではプロテスタントがキリスト教の解釈を変え、仕事に専念し、禁欲による節約で得た利益を新たな投資に生かし、他の人の利益になることは隣人愛にかなうという考えにより、現代の一部にみられる、ただ自分だけが儲ければよいという強欲な資本主義ではなく、健全なかたちで近代資本主義が始まりました。

※カトリックの影響が強かったイタリアやスペインでは資本主義の導入が遅れ、社会基盤の発展が遅れました。

※資本主義は、賄賂や不正が多い商道徳の低い国では効果を十分に発揮することはできません。

日本では、そもそも支配層である武士が禁欲的であり、日本的なわび、さびの美意識と石田梅岩や近江商人などの商道徳の確立により質素、節約、正直が美德とされ、商人が利益を寺子屋の資金援助や、新たな産業に投資をおこない、社会基盤の充実が江戸時代に自然発生的に始まりました。

時代の権力者の力と意思ではなく、個人が自由な発想で知恵を働かせることにより、社会生活の基盤の発展、充実が爆発的に起こるといふ資本主義の根幹が、世界にさきがけて西洋と日本で始まりました。



石田梅岩



都鄙問答



マックス・ウェーバー



プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神



ピーター・ドラッカー